

五泉市・阿賀野市・阿賀町一般廃棄物処理施設整備推進協議会
平成27年度第3回検討委員会議事録

日 時：平成27年8月20日(木) 午後2時～午後3時05分まで
会 場：五泉地域衛生施設組合 大会議室
出席者（敬称略） 委 員：小柳隆、鈴木良民、神田隆一、矢部秋子、武藤浩行、北村藤雄、樋熊征夫、清水常義、佐藤東市、植木誠、清野政勝、猪俣誠一、中野敬一、阿部信裕、星義孝、波田野貞夫、黒野弘靖、町田俊夫、寺田亨、関川嗣雄、星利昭、皆川秀男（委員27名中、22名の出席） 事務局：清野室長、風間係長、肥田主任、土屋主任、松田主事 関係者：（専門部会）今井俊昭、菅井裕冶、井上也寸志、木村隆八千代エンジニアリング(株)から2名
議 題：1. 平成27年度第1回検討委員会の確認について 2. 第2回検討委員会視察研修のアンケート結果について 3. 広域化に伴うごみ分別区分について 4. 広域処理施設整備にあたっての基本理念について 5. その他 ・会議の公開、非公開について(改正案)
議事進行 1. 開会 本日の会議には、関係者として専門部会である2市1町の担当者と委託コンサルタントが同席すること。また、事前に申し込みのあった3名の傍聴を認め、取材のための写真撮影を委員長の挨拶まで許可した旨を説明し、出席した委員から了解を得る。 2. あいさつ 黒野委員長 3. 議事 (1) 平成27年度第1回検討委員会の確認について 議事録により前回の検討委員会の会議内容を確認した。 (2) 第2回検討委員会視察研修のアンケート結果について アンケートの集計結果を説明した。 (3) 広域化に伴うごみ分別区分について 委員（A） 分別するかどうかの前に、資源ごみの絶対量はどの程度を目標に想定しているのか？収集区域や収集回数によってCO ₂ 排出量が現状より増える場合もあり、分別区分を増やすことが、必ずしもいい結果につながるとは思わない。

事務局

資源ごみの量に関しては、一般廃棄物処理広域化実施計画(1年次)の104~106ページの表にある減量目標値が想定される量です。

委員 (A)

資源ごみを収集する際に空荷で収集車を走らせて、無駄な経費をかけることにもなりかねない。CO₂排出量が増えたりコストがかかったりしては資源ごみを集める意味がなくなってしまう。収集形態もまだまとまっていない。収集することとCO₂排出量やコスト面との兼ね合いを十分検討したうえでないと話ができないと思う。

事務局

収集効率にも配慮しながら、段階を踏んで取り組んでいきたいと考えています。

委員 (A)

検討委員会は提言をする立場なので、これから先の構想ができていないと動きが取れないと思う。収集回数をどうするか?というのも提言の中には必要だと思う。ライフサイクルコストにも影響してくる問題で、分別や収集を増やすことによってどうなるかという検討がまだされていない。地域によってもどれだけの資源ごみが出てくるかわからない。そういったことも事務局には調べてもらいたい。

事務局

検討委員会として、例えば「リサイクル率は上げた方がいい。そのためにはプラスチック類を分別した方がいい。」という提言を出したとします。それを受けて、市町で検討した結果、収集コストがかかり過ぎて資源化のメリットはないという判断で取り組めないということになっても、収集に関しては市町で考えることなので仕方ないと思っています。事務局としては、収集コストも考えた中で分別区分を一つひとつ決定するのではなく、あくまでも検討委員会では方向性として提言をし、市町で収集コスト等を含めた中で考えて分別区分を決定し、施設整備計画で設計等に活かしていくものと考えており、検討委員会では収集部分を含めて提案するという事は考えていません。

委員 (A)

収集運搬は市町で判断するという事だが、分別区分を統一してみんなで協力していくという形でないといけないと思う。そういう意味でコストパフォーマンスをきちんと考えるべきだと思うが、そういった検討が今までない。ごみを分別することによりCO₂の排出量がどうなるのかという資料もないので、再度検討しながらやっていくべきだと思う。分別数を増やすことがすべていいわけではなく、費用対効果も含めた中で考慮していかないと、提言できる結果にはならないと考える。

事務局

資料 8 ページのごみ分別区分の表をそのまま提言書に入れるのではなく、「このように検討委員会として方向性は出しましたが、必ず市町で収集コストを研究した上で分別収集区分を決定し、新施設の建設に活かすこと。」といった一文を入れようと考えています。2市1町が共に取り組んでいける効率のよい分別方法を考えていくべきだと思うので、ご意見を提言書に十分活かしていきたいと思います。

委員長

他にありませんか？なければ議題(4)に移ります。

(4) 広域化処理施設整備にあたっての基本理念について

委員 (A)

安心・安全で安定した施設で「災害時にも長期間停止することなく」というのは、具体的にはどのようなものを考えているのか？また、エネルギーと資源の有効活用に配慮した施設では、熱エネルギーを発電に利用する施設整備を前提で進めていくということか？それによってはプラスチック類の回収も考えていく必要があるだろうし、バイオ発電のような形態だってある。どういった考え方なのか？

事務局

「災害時にも長期間停止することなく」というのは、ちょっとした地震で炉が停止するようでは地域住民が安心できないし、災害時の避難所としての役割も考えているので、そういう意味での安心できる施設となります。また、熱エネルギーの有効利用に関して、発電は交付金申請の要件でもあるので取り組みます。その場合、発電のためにプラスチック類は分別せずに燃やした方がいいという考えもありますが、近隣だと村上市の施設ではプラスチック類を分別していてもその他のごみで発電できており、本地域のごみ量から想定できる焼却炉の規模は 100 t 以上なので、この規模なら十分に発電が可能となります。

委員 (B)

安心・安全で安定した施設で、「トラブルや事故が無い」というマイナスの言葉が最初に出てくるとイメージダウンを招きかねない気がする。「地域住民が安心して生活でき、災害時にも長期間停止することなく安定してごみ処理を継続することができ、トラブルや事故が無い施設」のように後ろに持って行ったほうが、文面的には良くなるのではないかと感じる。

事務局

「トラブルや事故が無いこと」はもちろんのことなので、敢えて言わずこの文章から削除してもいいと思いますがいかがでしょうか？

委員（A）

施設を設置する責任があるわけで、私はこの文章はあって問題ないと思う。これまでに一つも事故やトラブルが無かったごみ処理施設はない。それならば「無い」ことを目指すのは、施設を運営する側の最低限の条件だと思う。

委員長

B委員の発言のように「トラブルや事故が無い」という文言を後に回したほうがいいということなので、事務局は検討していただきたい。

事務局

はい。そのように訂正します。

委員長

他にありませんか？なければ議題(5)に移ります。

(5) その他

・会議の公開、非公開について(改正案)

事務局

検討委員会の議事録を公開するタイミングが、「次回開催の委員会で承認を受けた後」になっているが、それでは時間が空き過ぎるなど支障があるので、「委員長及び副委員長に承認を得た後」に改正をお願いしたい。

委員長

事務局の提案について、いかがでしょうか？

～意見なし～

特に反対意見はないので、このように改正させていただきます。

以上で予定されていた議題は終了となります。ご協力ありがとうございました。

4. 閉会